



JUSTICE

ジェイアール・イーストユニオン
発行者 菅野 一位
編集者 教 宣 部
〒105-0021
東京都港区東新橋 2-8-28
TEL(J R) 057-7333
TEL(NTT) 03-6452-9687
ホームページ検索
「J R Eユニオン」

基本理念

1. 社員で考え、社員のための労働運動を目指す 企業内労働組合
2. 心とところをつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

自らを変える!! 明日を創る!! イーストイノベーション



10月16日、JR連合は、高松市内において、JRで働く仲間の労働災害を撲滅すべく取り組みを推進しよう!との掛け声のもと、「第11回安全シンポジウム」を開催した。会場には多くの招待者、組合員の仲間が参集し、JR産業という多種、多岐に亘る職場から労災をなくそうという決意を共有した。イーストユニオンからは、添田執行副委員長と、安全対策委員の五十嵐執行委員が参加した。

JR連合第11回安全シンポジウム すべてのJR職場の 安全確立にむけて

冒頭、挨拶に立ったJR連合 荻山市朗会長は、シンポジウムの開催にあたり、「JR連合は、福知山線列車事故を はじめとする重大事故やさまざまなる事象と、そこから得た教訓を決して風化させることのないよう、安全に対する取り組みを総括・検証・問題提起し、安全最優先の意識を浸透・共有化する機会として『安全シンポジウム』を開催してきた。今回で11回目を数える今シンポジウムの開催を通じて、JR産業全体の安全を今後

もより高いレベルで追求していかなければならない。」と述べるとともに、多くの課題認識を共有化することとあわせて、幅広く知見を拾い集め、労災事故等の発生を最大限低減させていくための将来展望について、考察を深める機会としたとシンポジウムの開催の趣旨が伝えられた。そして、労使共通の課題である安全の確立に早道は無いとした上で、安全で

社会に信頼されるJR産業をつくり出すべく、JR関係労働者の実現にむけて、着実に行動していくことを、全国から集まった組合員らに訴えた。



J R連合 荻山会長

社会に信頼されるJR産業をつくり出すべく、JR関係労働者の実現にむけて、着実に行動していくことを、全国から集まった組合員らに訴えた。

年末手当を要求!

本部は10月28日、2019年度年末手当要求「申第4号」を提出した。

当社の経営状況は、2020年3月期についても、第2四半期までの間、好調な業績を重ね上げてきた。『変革2027』を本格的にスタートさせ、多くの課題を乗り越えるべく議論しながら、将来に向けようと努力してきた結果である。本年度、令和元年はまさに「変革への歩み」を本格的に始動した年と言える。しかし、近年は大きな自然災害がその頻度を増し、当社にとっても甚大な被害がもたらされた。特に、台風被害による経営に与えた影響は甚大である。今、私たちは労働組合として、こうした危機を乗り越える術を会社とともに考えることが重要だと考える。当社の第二の出発点となった2011年の東日本大震災では、社員は丸となってその危機を乗り越

「基調講演」と各エリア連合からの取り組み報告

シンポジウムは4部構成で行われ、第一部の「基調講演」では、中央労働災害防止協会中国四国安全衛生サービスマスターの山岡和寿所長から、「みんなが安全確保、安全職場ヨシ!」とするテーマで講演をいただいた。指差呼称の役割と重要性や、組織コミュニケーションについては個々のコミュニケーションが大切なポイントであり、「おはようございます」「お疲れ様でした」「ご安全に」などの日頃からの挨拶が安全に直結するといった講演を受けた。

また、JR四国鉄道事業本部安全推進室の岡本真一室長からは、「JR四国グループの安全推進」として、New S S運動や、「安全推進の三本柱」と「攻めの事故防止サイクル」(PDCA)をグループで取り組んでいることなどの内容と併せて、大量退職に伴う取り組みでは、人材の資質維持向上のために、新研修施設に安全継承館を建設中であることなどについて講演いただいた。

えるべく努力し、しっかりと公共事業としての責任を果たすことができた。こうした状況を踏まえて、今年年末手当の要求にあたっては、社員・家族の幸福の実現に向けては、基より、懸命に災害復旧に努める組合員の努力に報いること、そして、さらなる安全対策、災害対策に万全を期すことを求めるものとし、以下の申入れを行った。

1. 2019年度年末手当は、基準内賃金の3.15ヶ月分を12月3日までに支払うこと
2. 自然災害を含めた安全対策及び、グループ会社に対する安全対策に万全を期すこと
3. サービス・人材育成に更なる投資を行うこと
4. 成績率の適用については、公平・公正に行うこと



の白壁靖子 事務局長、貨物鉄産労の小山達礼 中央執行委員がそれぞれ登壇され、安全デイスカッションや、リスクマネジメントの取り組みなどについて報告があった。

パネルデイスカッション そしてJR連合からの提起

第三部は、「安全で安心して働くことのできる職場づくり」にむけてと題したパネルデイスカッションが行われ、JR連合 今井孝治企画部長がコーディネーターを務める中、パネリストに、前出の山岡所長、電力総連の山本貴生次長、JR四国ホテルズの高島雅彦常務取締役、NESCO労組の八木大星執行委員長が、それぞれ、中災防、他産別からは電力総連そしてグループ会社労組の取り組みや、安全に関わる広く多くの見識・見解をいただき、労災事故等の発生を最大



限低減させ、いくための将来展望について考察を深めることができた。

第四部ではJR連合 中村鉄平交通政策部長から、福知山線列車事故以降のJR連合の取り組みとして、安全対策会議(現在の安全対策委員会)や、業種間安全検討会、安全シンポジウム、安全デイスカッションの開催などが説明された上で、JR連合の安全指針「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」にむけて、「安全は絶対譲らない」との信念に基づいた行動の実践が重要で

安全に関する申入れ 「申3号」を提出!

本部は10月、「変革2027」における安全について、「申3号の申入れ(6項目)を会社に提出した。これは、本年度に入ってもなお頻発する、設備や、運転に関わる事故等について、「変革2027」、「電気の変革2022」と、様々な改革、仕事の仕方の変革に取り組みしていく中で、安全確保、安定輸送の確保は、JR東日本の次の30年に向けて必要不可欠な課題であるとの認識の上

あると提起されるとともに、JR産業で働く仲間がJR連合へ総結集することにより、民主的な労働組合による健全な集団的労使関係が築き上げられ、JR産業の持続的発展につながっていくものであると、JR連合からの提起がなされた。

加盟101組合となったJR連合は、文字通り産別を代表する組織として、JR産業全体を俯瞰しながら、グループ全体の安全に対する取り組みの重要性を共有化していくというものである。私たちJREユニオンもJR連合の仲間とともに、JR東日本、JR東日本グループにおいて、安全を最優先課題に位置付けた運動を展開していかなければならない。

で、会社の考え方を質し、事故の連鎖を断ち切り、無くしていくというものである。この間、同種の事故が繰り返し発生している事象も見受けられ、教育訓練といった対策やルールの在り方等の検証も必要であるとしている。

「グループ安全計画2023」の提起にもある「究極の安全」をめざしていくこと、それは、労使ともなるチームでもあり、大量退職時代を向かえ、人材確保と人材育成・技術継承については、乗り越えていかなければならない大きな課題となつてい

4th イーストキャンプ KIBOTCHA

本部は10月26〜27日、「第4回イーストキャンプ」を、宮城県東松島市にある防災体験型宿泊施設「KIBOTCHA キボッチャ」にて開催した。

現状をしつかり認識し、議論していくことが重要である。また、多くの事故の教訓を捉え、風化させないことの大切さは基より、先進の技術やシステムの構築などにより、より進化した安全に繋げていくことも求められる。私たちは、そうした観点で、あるべき労使関係をしっかりと築き上げていくことが急務であると考えている。明日のJR東日本のためにも、会社との議論を深め、仲間とともに安全にしっかりと向き合いなながら、安全に対する職場風土の構築、安全文化の醸成に努めていくものである。

当日は、イースト各地本の組合員のほかに、JR連合からは中山耕介組織部長と、JR東海ユニオンからもお二人が駆けつけてくれた。キャンプ初日は、防災を学ぶ体験として、東日本大震災の被害や体験談などを、施設の担当の講師からお話をいただいた。また、「野蒜小学校」の震災当時の黒板や校庭の止まった時計など、当時の学校内施設物品展示を見学

するなどした。その他にも、自分が津波に飲まれないようにするには、そして相手を助ける場合などのロープの結び方の学習や、心臓マッサージ、匍匐(ほふく)前進の体験などを行った。

二日目は、震災復興伝承館(旧野蒜駅跡)の見学を行い、震災遺品の展示見学や、震災当時を振り返る映像の視聴などを行った。震災遺品には旧野蒜駅で使われていた券売機などもあった。また、当日案内してくださった飯坂さまとともに、震災当時、多くの命を救った「おさとう山(個人の手作り避難所)」に登り、津波の到達点など当時の状況の説明等もいただいた。

二日間に亘り、実際に被災地を訪れ、体験談をお聞きし、被災した施設やその事実を学ぶことができたことは、貴重な経験だった。あらためて命の大切さ、備えることの大切さを学ぶことができ、防災意識の高揚に繋がることとなった。また、夜の部のBBQ交流会でも、企画したチーム対抗ゲームなどで、親交を深めることもでき、絆をより深め合う、運動をさらに前進させるために、まさしく、目標を達成することができた。



ご参加、ご協力いただいた皆様、心より感謝申し上げます。